

2019年度 実験生物慰霊式／実験生物慰霊祭の開催について

2019年度に早稲田大学では二つのキャンパスで実験生物慰霊式、実験生物慰霊祭が執り行われました。

① 2019年度 実験生物慰霊式（先端生命医科学センター）

11月12日（火）先端生命医科学センター（TWIns）2F共用会議室Bにおいて、令和元年度実験生物慰霊式が執り行われ、学生および教職員、生物取扱関係者などが出席し、式典後の献花も含めると、156名の参列がありました。

はじめに柴田重信先生（先端生命医科学センター長）より挨拶があり、実験生物への感謝と哀悼の念について述べられました。また、動物実験に対する社会の目が厳しくなるなかで、より一層「3Rの原則」を考慮した実験計画を立てるよう心掛けなければならないと強調されました。

挨拶の後、生命科学分野の教育・研究のため貢献した実験生物への感謝と犠牲となった生命への哀悼の念を表し、出席者一同が黙祷を捧げました。

続いて、職員より、実験動物とヒトとの間に命の優劣はなく、やむなく動物実験を行う場合には、「3Rの理念」に基づく実験動物への配慮と、実験を通して得られた成果を社会や研究教育の発展に還元することを誓う慰霊の辞が述べられました。

締め括りに、参加者全員による献花が行われ、厳粛のうちに終了しました。



② 2019年度 実験生物慰霊祭（所沢キャンパス）

11月30日（土）、所沢キャンパス「実験生物慰霊碑」前において、令和元年度実験生物慰霊祭が開催されました。晴天の下、人間科学学術院、スポーツ科学学術院の生物実験に従事する教職員、学生ら36名が参列しました。

式典では、中氷川神社の宮司により、降神の儀、慰霊碑への遷霊、祭文奉上、玉串奉てん、昇神の儀が執り行われました。

続いて、正木宏明先生（スポーツ科学研究センター所長）より挨拶がありました。

挨拶では、応用科学として位置づけられることの多い人間科学とスポーツ科学は、実際には基礎科学の研究知見が支柱となっており、特に動物実験を通して得られた知見が人間科学・スポーツ科学の進歩に大きく貢献してきたことは揺るぎない事実であること、また、近年動物愛護の思想が強まり、動物実験を見る目は年々厳しくなっているが、本学においても動物愛護、環境保全の観点と、動物実験に関わる者の安全確保の観点から生物実験に関する研究倫理規程が厳格に定められており、我々も規程に沿って、科学的かつ倫理的に動物実験を行っていくよう心掛けなければならず、人に健康と福祉の向上をもたらすために犠牲となった多数の生物に対して改めて感謝の念をささげるものであることが述べられました。

最後に、本年度の実験生物の使用状況が読み上げられ、また30年を超える本祭典についての経緯を含めた宮司からの挨拶があり、厳粛のうちに慰霊祭を終えました。



以 上